

同志社創立 150 周年記念 全同志社合唱祭

－「合唱の同志社」、ここに集う。－ 開催

法人事務部 創立 150 周年記念事業事務室

11月9日(土)、京都コンサートホールにおいて、同志社創立 150 周年記念「全同志社合唱祭」が開催された。

同志社グリークラブや同志社学生混声合唱団 C.C.D.など、同志社内各学校の 23 の合唱団が集い、まさに「合唱の同志社」と呼ぶにふさわしいビッグイベントとなった。

KBS 京都のアナウンサーで、同志社にゆかりの深い海平和氏の開会宣言のあと、八田英二同志社総長・理事長のあいさつで幕を開け、単独・合同併せて 15 ステージの合唱が繰り広げられた。中高生、大学生、PTA、OB・OG と幅広い年齢層が、女声、男声、混声、そしてゴスペルと、様々な演奏形態で観客を楽しませた。

圧巻は、827 人の出演者全員による「全体合唱」。同志社オリジナル賛美歌「主の道を行こう」に続き、「ハレルヤコーラス」を、本山秀毅氏の指揮、大代恵氏のパイプオルガン伴奏により、観客も交えて高らかに歌い上げられた。まさに満堂に響き渡る歌声であった。

指揮の本山氏をして「メサイアが初演された時の 2,000 人の合唱に匹敵する歌声ではなかったろうか」と言わしめたほどの迫力であった。ステージ、ポディウム、バルコニー、そして栈敷席に、所狭しと並んだ合唱団に包まれた観客は、生の声の力強さ、合唱の醍醐味を感じられたことだろう。長く続いたコロナ禍で、合唱は「飛沫感染の温床」とされていた。大勢で歌うことが禁じられた日々から解放され、マスク無しで力いっぱい歌う喜びが、ここに集った全てのメンバーの顔に溢れていた。

今回の合唱祭に至るまでには、2 年以上の歳月と、多くの人々の協力が必要であった。始まりは 2022 年 3 月。今回実行委員長を務めた遠山耕二氏(1973 年大学文学部卒)は語る。

「同志社学生混声合唱団の先輩である山崎達雄兄から呼び出され訪れたのは、『学校法人同志社創立 150 周年記念事業事務室』でした。そこで、創立 150 周年記念事業の担当者から『同志社創立 125 周年に開催した全同志社合唱祭が好評であったため、創立 150 周年に向けて再び行えないか』との相談がありました。こんな私に、母校からの相談があったということに大いに発奮しました。私は、125 周年の合唱祭でステージマネージャーをしたということで、今回実行委員長を拝命することになりました。誠に光栄なことでした。実行副委員長には同志社グリークラブ OB 会理事長の森島敏夫氏に務めていただき、他の委員の皆さんとともに大いに助けていただきました」

それからは、同志社関係の合唱団の洗い出し、趣意書の作成など準備作業が続いた。留意点は、合唱団の「漏れ」がないことと、コロナ禍で活動しているかどうかという点であった。リストアップされた団体にアンケートを送り、活動状況と合唱祭への参加意思を聞いた。そ

の結果、23 団体から「参加希望」の回答が届いた。それを受け、2023 年 1 月に第 1 回代表者会議を開き、実行に向けて本格的に動き出すことになった。

ただ、アンケートでは厳しい現実も知らされた。それは、合唱人口の大幅な減少である。少子化が進み、若者の趣味が多様化し、学生はアルバイトに時間を割かれ、クラブ活動をする人数自体が減ってきた。そこに、新型コロナという災厄が追い討ちをかけた。こんな状況下で、合唱祭を開いても果たして盛り上がるのかどうか心配された。

だが、そのコロナが感染症 5 類に移行してからは、あっという間にあちこちで合唱活動は再開され、マスク無しのコンサートが増えてきた。毎回、代表者会議に集まった面々の熱量も高く、こんな状況だからこそ、コロナがあったからこそ、同志社の仲間が一堂に集い、「合唱の力」を示したいという意欲に満ちていた。その意欲と周到な準備が今回の合唱祭の大成功につながったといえるのではないだろうか。聴衆は合計で 1,288 名であった。

コンサート当日の様子は、同志社創立 150 周年記念ホームページで見ることができるので、ぜひご覧いただきたい。(https://150th.doshisha.ed.jp/)

また、同志社社史資料センターの協力により、ハリス理化学館同志社ギャラリー第 32 回企画展として、「合唱の同志社 - One Purpose DOSHISHA 合唱が紡ぐ 150 年 現在～過去～未来～」が 2024 年 9 月 24 日～11 月 17 日まで同志社大学今出川キャンパスハリス理化学館同志社ギャラリー 2 階企画展示室で開催され、6,161 人の合唱ファンの方にお越しいただいた。この企画に参画した合唱団には、同志社の歴史と共に歩んできたコーラス・合唱に関する歴史を残したいという願い、そして、新型コロナウイルスによる未曾有の災害を経験してもなお、未来を向いて活動する自分たちの姿を示したいという想いがあった。展示には 20 団体の協力があり、あわせて 250 点余りの資料を展示した。100 年近くの歴史を有する団体から、創立後数年という団体まで様々な歴史的背景を有する各団体が、自らの歩みを形で示すたいへん意義のある展示となった。

1927 文字